

“ 故高垣啓一先生（弘前大学）の御業績を振り返って ”  
産学官連携における業績

---

児島 薫（弘前大学地域共同研究センター）

2006 年夏、僅か 53 歳という若さで一生を終えた故高垣啓一先生の業績を振り返るとき、53 年という短い時間の中で成しえた数々の業績に驚きと敬意を表するものの、高垣先生と活動を共にしてきた我々には、未だに無念の思いが込められて参ります。

高垣先生は平成 3 年 8 月に弘前大学医学部生化学第一講座助教授、平成 14 年 8 月に同講座教授に就任されました。高垣先生の研究者としての歴史と併走するように、全国的に「産学官連携」という動きが始まり、平成 3 年 2 月、㈱インテリジェント・コスモス研究機構、青森県、弘前市、生化学工業㈱、宝酒造㈱など計 14 社が連携し弘前市に㈱糖鎖工学研究所が開設し、その設立準備から、そして同研究所の研究部門で多くの指導・助言そして支援をされました。平成 9 年、高垣先生を筆頭に県内の産学官関係者約 100 名による「青森糖質研究会」が組織化するなど、糖質研究者による強固なネットワークを形成し、平成 14 年 11 月、弘前大学内での人的・知的財産を活かすとともに「プロテオグリカン研究拠点」の構築に向けて、その産業化・実用化にシフトした研究体制を整備するべく、医学部、理工学部、農学生命学部、教育学部などに在籍する研究者で構成する横断的な研究プロジェクト「弘前大学・プロテオグリカンネットワークス」を立ち上げるなど、様々な糖質研究に関する施策を実施してまいりました。また、これまでの研究と産学官連携活動により、平成 10 年、地元企業とマッチングし産業化を目指したプロテオグリカンの量産化研究に着手されました。そして、これまでの産学官連携の活動が評価され、平成 16 年度から文部科学省が遂行する、都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」に採択され、医薬品・医療材料、機能性食品、化粧品などプロテオグリカンの産業化・実用化を目指した研究開発を推進してまいりました。

高垣先生が最も積極的に活動したプロジェクトでしたが、途中で病床に倒れプロジェクトの終結を見ることはありませんでした。

しかしながら、これまでの糖質研究そして産学官連携に御尽力さ

れた高垣先生のご意志は、高垣先生と活動を共にした方々に堅実に引き継がれ、さらなる発展を目指しプロジェクトは遂行しております。

最後に、発表の場を御用意して頂きましたフォーラム関係者の方々に深く感謝するとともに、故高垣啓一先生のご意志がこれからも生き続けることを願い、産学連携における御業績について報告させていただきます。